

あなたらしいワーク・ライフ・バランスを考えよう!

仕事に一生懸命のお父さん、仕事も家事もがんばるお母さん。もちろん、働きたいお母さんも、仕事を探してるヤングも、シニアになっても働きたいあなたも。

仕事だけ家庭だけではない、ライフサイクルの時々に合わせて、あなた自身がいきいき活躍できる生活のバランスを考えてみましょう。

共働き世帯の増加

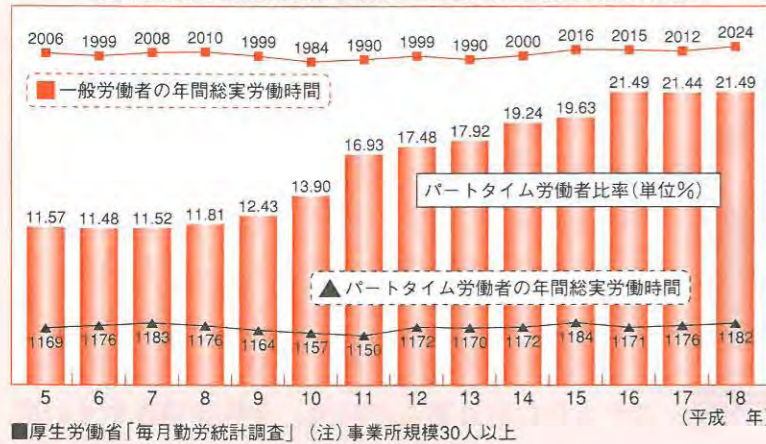
仕事と育児

二者択一を迫られる女性

現在、雇用者世帯の過半数が共働きです。しかし、子育て支援などの社会基盤は不足しており、女性が仕事を続けるための環境が不十分なため、出産退職した女性の4人に1人が続けたかった仕事を断念しています。



就業形態別年間総実労働時間及びパートタイム労働者比率の推移



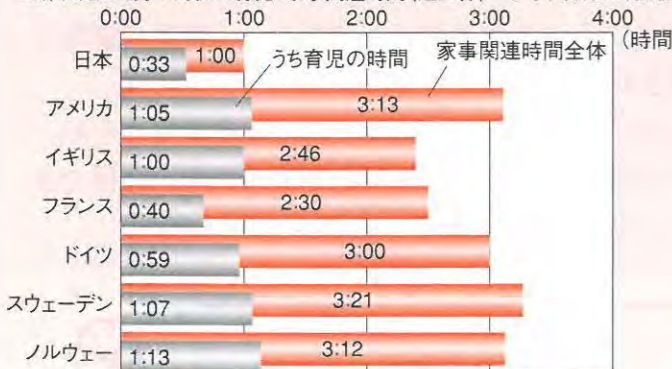
労働時間の二極化

増えるパートタイム労働者と仕事に忙殺される正社員。

アルバイトや派遣社員などの比率は増え続け、正社員などの労働時間は高止まり。自己啓発や家族団らん、地域活動に参加する暇もなく、長時間労働で健康を害するケースも少なくありません。

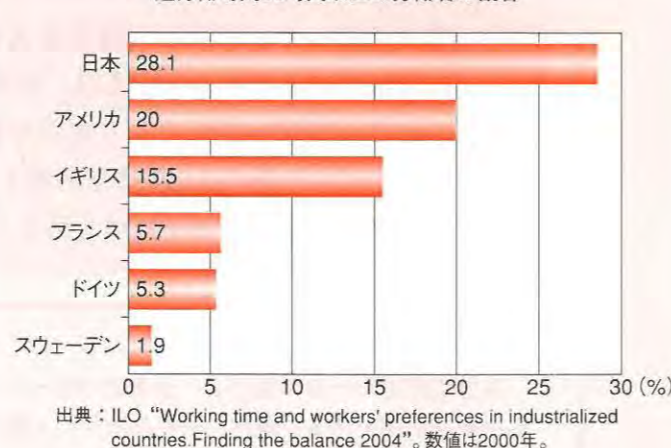
仕事、家族との時間、自分磨きの時間、ボランティアや地域活動、どれも大切にしたいですね。しかし、日本の現状は“ワーク・ライフ・バランス”を実践できる社会とはいえないようです。

6歳未満児を持つ男性の育児・家事関連時間(週全体) 少子化白書21年版



資料: Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men" (2004), Bureau of Labor Statistics of the U.S. "America Time-Use Survey Summary" (2006), 日本: 総務省「社会生活基本調査」(平成18年)

過労働時間50時間以上の労働者の割合



橋 節哉会頭

丸亀商工会議所

市内約1,800の企業・事業所が加入する丸亀商工会議所は、商工業の総合的な改善発達・社会一般の福祉の増進を目的としており、ワーク・ライフ・バランスの推進は、経済社会の持続可能な発展や企業の活性化のためにも不可欠だと考えます。

今後とも「まるがめ会議所だより」による市内商工業者への情報提供や意識啓発に取り組むほか、市役所など行政と連携して、企業・事業所のワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みを応援します。

ハローワーク丸亀

日本では、現在、少子高齢化が加速度的に進行していますが、このままでは将来、年金・医療・福祉などの面で運営が厳しくなることはもとより、労働力の減少により、産業・経済への影響が危惧されます。



奈良忠雄所長

また、少子高齢化問題を考える場合、このような大所高所からの視点だけでなく、次世代社会の育成のために、親世代、そして祖父母世代も巻き込んで、子供たちを温かく育てていくことが大切だと思います。仕事と家庭の調和による次世代育成が、今日ほど必要とされている時代はないのではないでしょうか。

丸亀市産業振興課



矢野浩三課長

丸亀の地域経済の発展や市民生活向上には、産業基盤の安定・強化、中小企業の育成・発展等が欠かせません。

そのために産業振興課では、ワーク・ライフ・バランスの実現に向け率先して取り組みます。また、男女共同参画室や産業経済団体、事業所等と連携し、ワーク・ライフ・バランスの重要性の啓発や各種融資制度の普及など、市民一人ひとりが、仕事のやりがいと生きがいを実感でき、その能力を発揮できる環境づくりを進めます。

新米室長の松江修行 日本女性会議2011

命を守る・地域医療支援。『くるみん』の認定を受けたある医療機関は、男女を問わず医療従事者が集まる職場になったそうです。職場に男女共同参画が根付くことにより地域医療に貢献できた例でした。

登山家田部井淳子さんの講演は、登山の話にさりげなく女性参画を盛り込んだ軽妙洒落な語り会場は大盛り上がり。構えることなく男女共同参画を実践する姿。自然でいいなあ。

シンポジウムでは、資生堂副社長の岩田喜美枝さん(元厚生労働省キャリア)が光っていました。岩田さんの出身が香川県という最上目だけではないと思うのですが、穏やかな口調と声質で、国や企業での実績を踏まえて論理的に分かりやすく語られ、説得力がありました。

硬軟織り交ぜた日本女性会議は新米の私にも理解しやすく、ちょっと賢くなったような気がします。

(男女共同参画室長 白川正憲)

～笑ってる父親を増やせば、家庭も地域も変わる～

講師 安藤哲也さん(NPO法人ファザーリング・ジャパン代表)
主催 香川県・NPO法人 わははネット

「父親は家事に関して能力がないのではなく、OSが古いだけ」との例え話に納得。父親力を引き出せないでいるのは、何かと文句を付ける妻に責任がある場合もあるかも。とても軽妙な語り口、事例も交えながらの講演で、みんな生き生き。世界観を確実に拡げていただきました。子育てには男性の目線での企画力や行動力も大切です。

講演後、イクメンの役割について話し合う中で、夫婦のパートナーシップも、広場に集う家族同士のコミュニケーションも以前より強まったように思います。

塚本詩乃(コムコムひろば)

応援してます

誰もがバランスよく働く!

国や自治体だけでなく企業やNPOなど民間での取り組みも始まっています。働くあなたを応援する制度は、これからもどんどん広がっていきます。様々なサポートを上手く使って、あなたも

ひとつ「働き方」を変えてみよう!



～「カエル! ジャパン」キャンペーン～

内閣府では、ワーク・ライフ・バランスを社会全体で推進するための取り組みを行っています。ポータルサイトには、国や地域、民間団体などの取り組み報告や関連資料など、お役立ち情報が満載。是非、ご覧下さい。

<http://www8.cao.go.jp/wlb/>